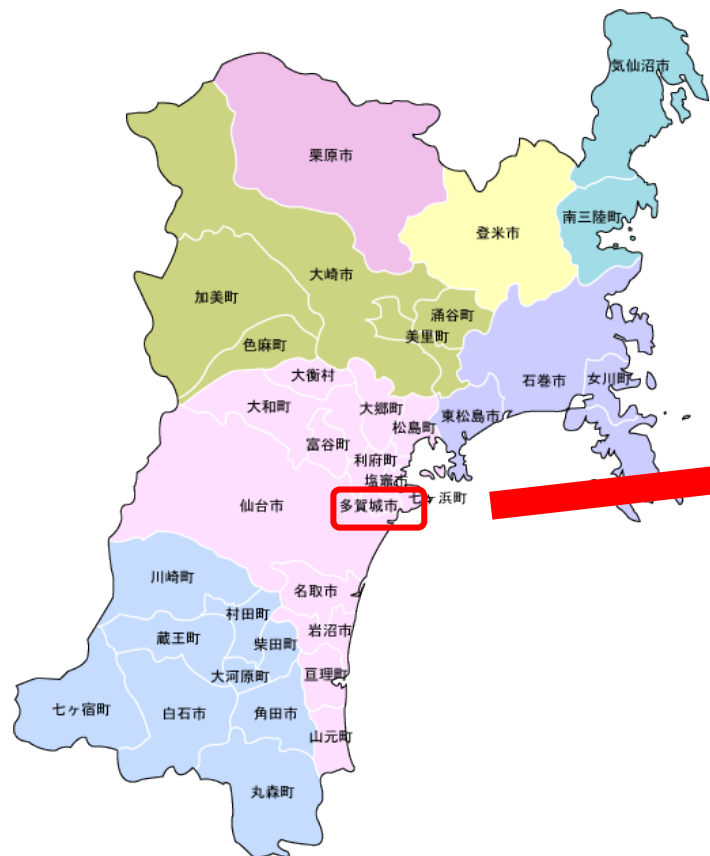


宮城県多賀城高等学校

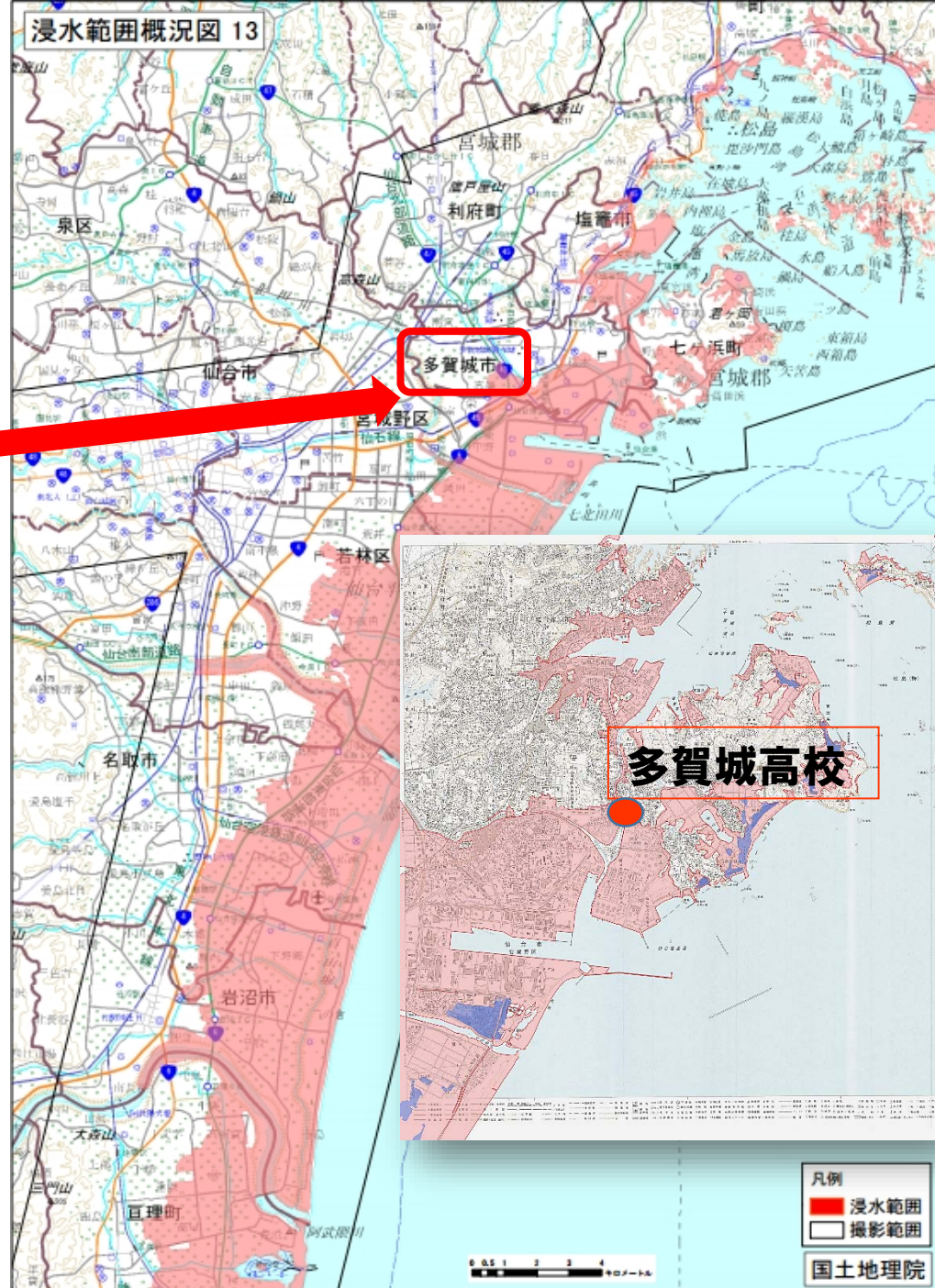
誰にでも 未来を創る ちから 能力がある



昭和51年（1976年）創立



浸水範囲概況図 13



教育目標 さとく ゆたかに たくましく

普通科	男子	女子	計(人)
1学年	136	143	279
2学年	133	148	281
3学年	132	143	275
全学年	401	434	835

東日本大震災(多賀城市内の様子)



市内中心部砂押川



国道45号線



産業道路(県道23号線)沿いイオン屋上

14:46 地震発生

- ・市内防災無線の故障
- ・風雪
- ・日没間近

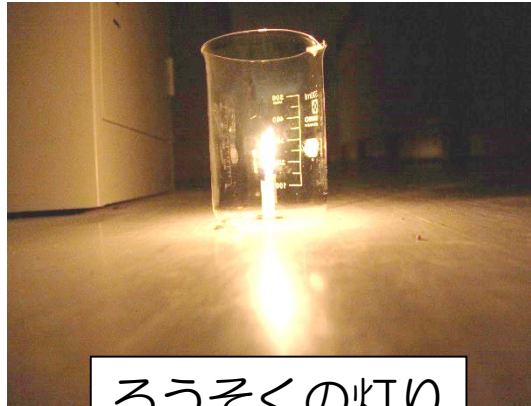
16:00頃 多賀城市内津波流入

- ・犠牲者188名

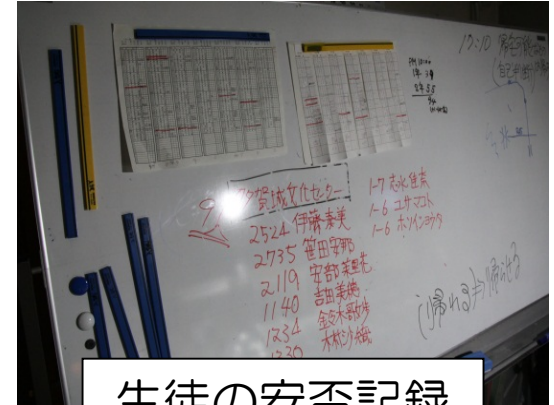
多賀城高等学校の3. 11



職員室の様子



ろうそくの灯り



生徒の安否記録



避難生徒の様子



ストーブで暖をとる



製油所火災

- ・テレビ等による断片的な情報しか入らない
- ・被災状況、津波の詳細は不明のまま
- ・帰宅時や自宅で津波に遭う生徒もいたが、全員無事
- ・学校待機の生徒118名が夜を明かす
- ・21:30頃直線3kmのJX日鉱日石製油所で火災発生

震災を「未来に」「世界に」伝える

震災の教訓を活かした学習活動

ESD(持続可能な開発のための教育)

※ユネスコスクール加盟申請中

多賀城高等学校におけるESD

防災学習

- 通学防災マップ, 津波標識設置
- 防災ワークショップ DIG...

自然科学学習

- つくば研修, 浦戸巡検, 女川巡検
- 東北大授業, JAXA授業, JAMSTEC授業
- Control System Security Center実習...

国際理解学習

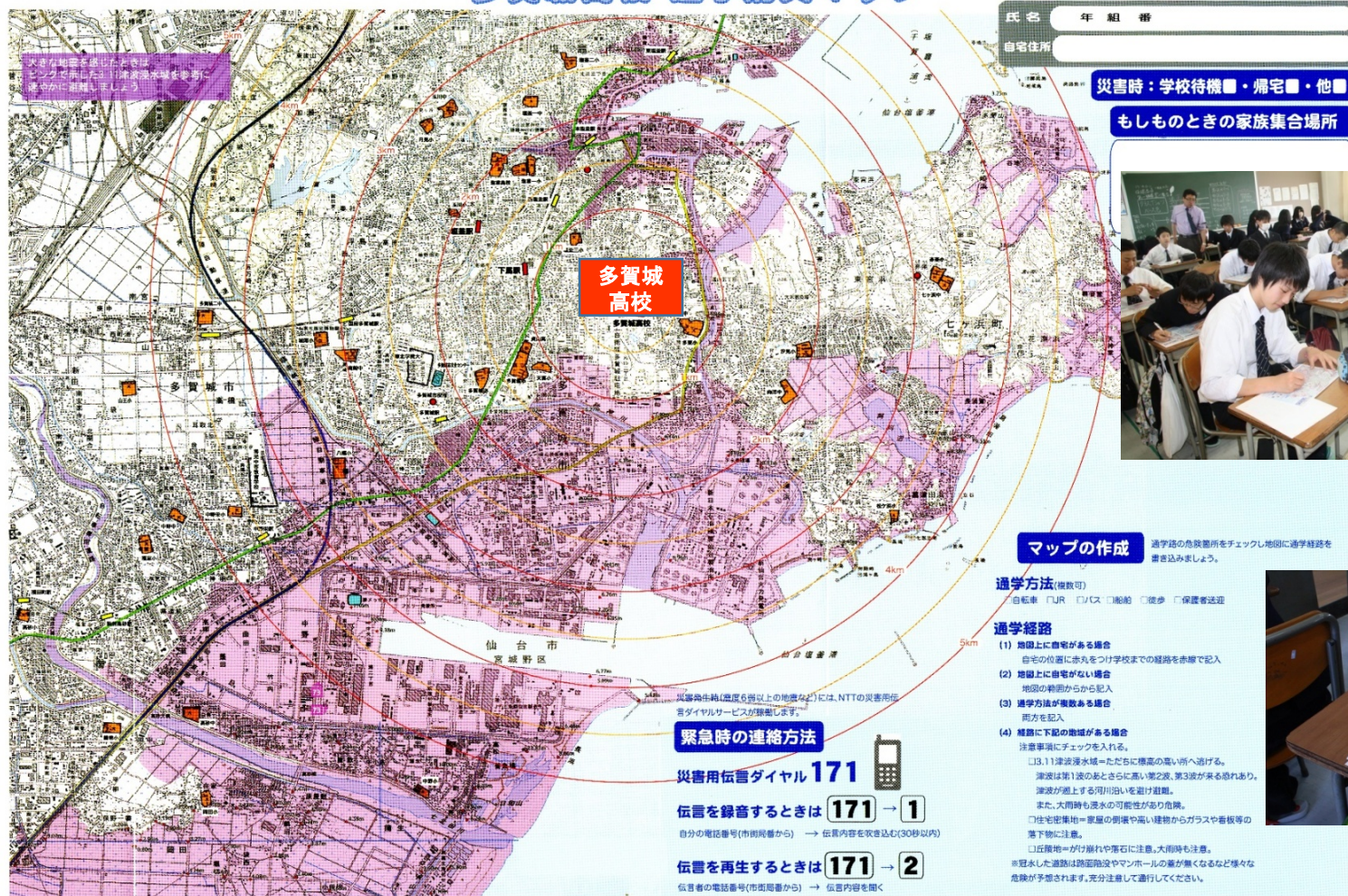
- 被災地国際案内ボランティア
- JICA出前授業, 模擬国連...



防災学習 通学防災マップの作成

津波浸水域を理解し、津波襲来の危険が少ない通学路を確認する。
通学経路を朱書し、津波警報時に活用。家庭用と学校保管用として2部作成。

多賀城高校 通学防災マップ



津波波高標識設置活動

通学防災マップの浸水地域(通学圏)の津波波高を調査
→津波は実際にどのくらいの高さだったのか？



(1)

多高通信 津波標識設置活動特撮号

2013年(平成25年)4月20日

津波 通学の安全と伝承 標識設置活動はセカンドステージへ

津波標識設置活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。この活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

多高通信

多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

津波標識設置活動特撮号

津波標識設置活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

多賀城市との連携と新たな手法へ

多賀城市との連携と新たな手法へ。津波標識設置活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

各種申請

各種申請。津波標識設置活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

住民の理解があつてこそ

住民の理解があつてこそ。津波標識設置活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

国道にも初設置

国道にも初設置。津波標識設置活動は、多賀城市内の通学圏に設置された津波標識の高さを調査し、実際にどのくらいの高さだったのかを調査する活動である。

津波波高標識設置活動(新たな取り組み)

新たな設置地区を制定し『地区自治会に説明・協力依頼』



津波痕跡の消失
↓
伝承活動の継続
↓
当時の様子を聴き取る調査へ
↓
デジタル地図への埋込



自然科学学習

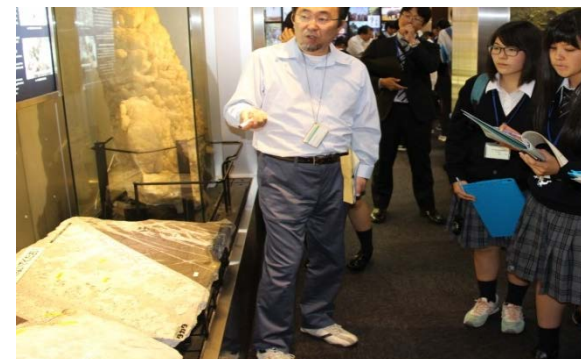
自然科学学習

つくば研修

防災科学技術研究所での研修…液状化，共振，土砂崩れなどのモデル実験



宇宙航空研究開発機構(JAXA)…施設見学
産業技術総合研究所地質標本館…施設見学，特別講義



国際理解学習

国際理解学習

被災地案内国際ボランティア(続キズナプロジェクト)



①震災当時の学校の状況を説明する



②自分たちの被災体験を伝える



③被災地を一緒に訪問する(七ヶ浜町菖蒲田浜)



④復興の様子を伝える
(七ヶ浜町仮設住宅訪問)



⑤地域の歴史・文化や魅力を伝える(松島湾)

平成25年…アメリカ
平成26年…アメリカ
フィジー
チリ
ジャマイカ
ベトナム
平成27年…中国
台湾
香港

国際理解学習

国際理解学習

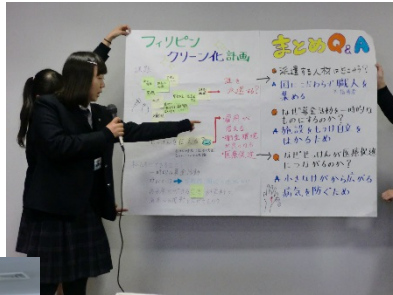
JICA活用事業

JICA出前授業



海外派遣により、タンザニアで2年間活動した元隊員の、途上国の現状理解や国際協力に関する講義

JICA東北国際協力実体験プログラム



途上国の現状や国際協力に関する理解を深め、自分たちに何ができるのかを積極的に考える

国際理解学習

模擬国連



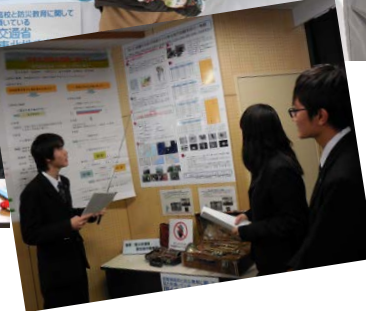
参加生徒は、それぞれが国連加盟国の国連大使になり、自国の政治状況や経済状況などを考慮しながら、どのようにしたら国際社会が協力できるのかを考える。

その他の国際理解学習へ

『国連防災世界会議』への参加



未来に伝える
多賀城高等学校における防災・減災教育の取組～
児童等を対象とした里親による
家庭養護



平成28年4月「災害科学科」開設



教育目標

- ・「人とくらしを守る」高い志の醸成
- ・幅広い分野で活躍できる人材の育成
- ・地域や小・中学校との連携による防災教育の充実

災害科学科で
身につける能力



- ・未来を予想(予測)する能力の基礎
- ・課題を解決(対処)する能力の基礎
- ・リーダーシップ, コミュニケーション能力の育成

ちから

未来を創る能力の育成

目指す生徒像

リーダーシップ

主に防災教育を通して

- ・ 防災，災害教育をととした人間力の育成
- ・ 情報を迅速かつ正確に処理，発信する能力の育成
- ・ 発表会，コンクール，交流会等への参加を通した論理性と表現力の育成
- ・ ボランティア活動等を通した社会生活における
コミュニケーション能力の育成

高い志とアビリティ（能力）

主に自然科学学習を通して

- ・ 次世代へ伝える，他の地域へ伝える，世界へ伝える「志」と共助の使命感
- ・ S S H（スーパーサイエンスハイスクール）指定校（応募予定）
- ・ 高大連携，学社連携を通した外部指導力の活用
- ・ 防災専門教育アドバイザーによる先進的な指導助言

国際的な視野

主に国際理解学習を通して

- ・ ユネスコスクール（E S D）加盟（平成27年3月申請）
- ・ 海外高校との交流
- ・ 海外からの被災地訪問者への案内ボランティア

災害科学科教育課程表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
3年	現代文B		古典B		政治経済			倫理と国際社会	数学Ⅲ						化学		物理		科学技術と災害		体育		コミュニケーション英語Ⅲ						くらしと安全Ⅲ	課題研究	ⅤⅥ		
																	生物		生命環境学														
									数学Ⅱ				数学B				選択																
2年	現代文B		古典B		世界史A		数学Ⅱ			数学B		美術Ⅰ		自然科学と災害B		物理		化学		体育		コミュニケーション英語Ⅱ			科学英語		くらしと安全A		情報と災害		課題研究	ⅤⅥ	
																生物																	
1年	国語総合				社会と災害			数学Ⅰ			数学A		自然科学と災害A			自然科学と災害B		実用統計学		体育		コミュニケーション英語Ⅰ			英語表現Ⅰ		くらしと安全A		情報と災害		課題研究基礎	ⅤⅥ	

－課外活動等－

- ・ボランティア活動(時間数で単位履修認定能)
- ・スキルアップ研修
- ・国際交流
- ・地域連携
- ・防災ワークショップ
- ・被災3県共同研究

外部機関との連携・協力



みやぎの「志」教育 東日本大震災の伝承 未来の「命」と「暮らし」を守る力